

## 第24回県高等学校PTA広報誌コンクール講評

外部審査委員 福島民報社 石井賢二

### 総評

各学校ともに、特色ある紙面構成で読み応えがあった。紙面作りのソフト？があるのか、各ページの工夫が素晴らしい。今回、特に注意したのは各ページの構成とした。新聞紙面作りで重視しているのは、ページの性格。話題を煩雑に盛り込んでしまうと、何のページかが分からなくなってしまうため、この点において、全ての学校がクリアしている。とてもレベルが高いと感じた。

また、各校とも写真をふんだんに使用し、カラーの紙面を映えさせている。多くの写真素材を集めること、選別することが大変だったと思うが、よくまとめている。写真については、各校の講評でふれているが、たくさん載せたいとの心情は理解できる。ただし、紙面は掲載できる面積が限られていることを念頭に置いてほしい。数を絞れば、大きな写真が使えるし、メリハリを出しやすくなる。編集者の権限として行使することを考えてほしい。

新型コロナウイルスの影響を盛り込んだ学校もあった。タイムリーな話題は読み手の目を引くことはもとより、記録性においても重要な点。「ああ、あの年はこんなことがあった」と振り返るのは、今後、広報誌を制作する人にも参考になる。記録性が高い紙面については、評価を高くさせてもらった。

期間を区切って発行される広報誌は、話題の選定など苦勞する点が多いと思う。編集を担当する方々は、読み手のことを第一に考え、会議を重ねることが望ましい。前例踏襲だけではなく、その年ごとに特色を出すようにすると、よりよい広報誌ができると思う。

頑張ってください。

### 個別評

【川俣】新型コロナウイルスの状況をつまびらかにするため、アンケートを取り上げた視点が面白い。部活などの苦勞がよく分かり、生徒、親の苦悩が共有できると思う。写真を多く載せたい気持ちはわかるが、枚数を絞って、何かを際立たせる手法も考えてほしかった。

【喜多方桐桜】変則的な折り込みの形ながら、よくまとまっている。ページの開き方を考えた構成は見事。ただし、情報量が多すぎると、写真のメリハリがないのが残念。選択する作業は難しいが、よく話し合っ取捨選択するのが、編集者の肝と考え、思い切って取り組んでほしい。

【福島商】朝の連続テレビ小説のテーマと母校の先輩をうまく取り上げ、タイムリーな構成となっている。中面は写真を多用、組み合わせで一覧性が高い。文字を少なくして写真の配置の工夫がみられる。フロントに記事を集中させる思い切った作りにみえた。